

京林大だより

No.30



絵:卒業生 熊走君



4期生卒業



卒業証書を校長先生から

梅の花の香りが漂い春の兆しを感じさせる空模様のもと、3月10日、林業大学校第4期生20名の卒業式が和知ふれあいセンターでとり行われました。

只木校長先生から一人一人緊張した面持ちで卒業証書を受け取った卒業生達は、校長先生や御来賓の方々からのお祝いの言葉を聞きながら、2年間の林業大学校での生活を振り返り、感慨もひとしおだったと思います。

また、高性能林業機械操作士と森林公共政策士に認定された学生に証書が渡されました。

卒業式終了後は、今年も地域の皆様方から心温まるおもてなしを受け、家族と一緒に和やかなひと時を過ごしました。

地元の皆様には、入学式からずっと暖かく見守っていただき、学生たちはとても心強かった

ことと思います。本当にありがとうございました。

これから様々な地に旅立って行きますが、きっと和知での生活は一生の良き思い出になったものと思います。

卒業生の各地での活躍を祈るとともに、またいつか元気な姿を見せてくれることを願いたいと思います。



高性能林業機械操作士に3人認定

森林公共政策士に2人認定

2年間、お世話になりました。



式の後学校でヤマザクラを植樹



今年も地域の皆様ありがとうございました

平成28年度卒業生が 知事を表敬訪問

平成29年2月28日に卒業生を代表して府内で林業に就業予定の5名が、知事に卒業と就業の報告をしました。

平成28年度卒業生20名は全て林業職及び林業系職業に就きます。

知事からは、「木材（CLT）生産、災害対応、環境対策（特に水）を担っていくのは林業であり、林業、木材産業の担い手として大いに期待する」との激励をいただきました。



農大卒業生も一緒に知事と記念撮影

今月の授業参観

『鳥獣被害対策』

農山村の野生鳥獣被害は大変深刻ですが、効果的な防護柵の設置は最も重要な対策の一つです。

防護柵は様々なタイプのものがありますが、今回ワイヤーメッシュタイプを用いて設置実習を行いました。

支柱に針金でくくりつけたり、アンカーで下を止めたりと、慣れないながらも一生懸命取り組んでくれました。



手分けして防護柵を設置



校長室より

28年度京都林業のつどい

校長 只木良也

昨年度まで、「森林・林業・木材京都会議」の名で、京都市内で開催されてきた京都府主催の会。今年度は少々趣向を変え、「京都林業のつどい」の名で、平成28年度分が京丹波町和知ふれあいセンターで、2月10日、開催されました。

この会の主題は、府外からの多くの講師に、成長型の林業の実現を目指す全国の先進・実践事例を解説してもらい、府内の森林所有者、林業事業者等が、これからの京都の林業に何が必要なのかを探るところにありました。

基調講演は、遠藤日雄氏（前鹿児島大教授、京都府成長型林業構想検討委員会座長）の「これからの京都の林業に何が必要

か」。全国の事例を紹介しながら、いまや森林所有者、森林組合、素材生産業者の出番、愚痴をこぼすのはやめよう、一人だけでなく、志を同じくする者同士が助け合おう、と論を展開。

続いて「皆伐・再造林をどのように進めるか」について、京都大阪国有林、兵庫県、長野県、栃木県、和歌山県から、5件の事例報告。「コンテナ苗」を用い、また伐採・造林を一貫作業として行うところに、一連の育林作業の効率化、コストの削減もあり、といった事例紹介が中心的話題でした。

「伐採とは、更新のための手段なり」、昔聞いた名言を思い出した次第。

なお、コンテナ苗とは、特殊な容器の中で根を発育させた苗木で、オールシーズン植栽可能、活着がよく、軽量で運搬・植栽が容易で、いま各地で需要拡大中です。会場には、その展示も在りました。

「地方創生」に不可欠な森林の活用、そのための成長型林業。今回の集会在、京都に有意義に実ることを願っています。